



令和2年11月4日

無電柱化に関するパネル展を開催します！

～11月10日は『無電柱化の日』です～

釧路開発建設部では、「道路の防災性の向上」、「安全で快適な通行空間の確保」、「良好な景観の形成や観光振興」の3つの観点から、道路上から電線・電柱等を無くす無電柱化事業を行い、北海道における魅力ある地域の形成を目指し事業を推進しております。

このたび、11月10日の「無電柱化の日」に合わせて、北海道における無電柱化の必要性を広く知っていただくことを目的に、パネル展を開催いたしますので、お知らせいたします。

1：開催場所・期間

- ① 釧路市役所本庁舎 1階ギャラリー （釧路市黒金町7丁目5番地）
令和2年11月9日（月）10：00 から 11月13日（金）16：00
- ② 釧路地方合同庁舎 1階ロビー （釧路市幸町10丁目3番地）
令和2年11月9日（月）10：00 から 11月20日（金）16：00

2：展示内容

無電柱化の目的等についてのパネル展示（別紙参照）

※ 無電柱化の推進に関する詳細については、以下の北海道開発局ウェブサイトに掲載しています。

http://www.hkd.mlit.go.jp/ky/kn/dou_iji/ud49g700000ioha.html

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策として消毒液の設置などを実施いたします。

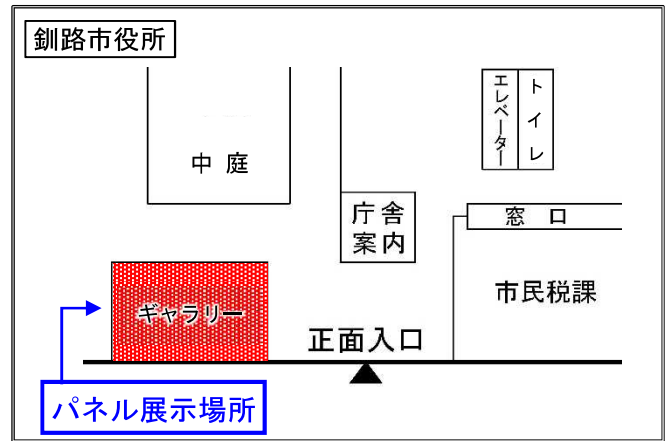
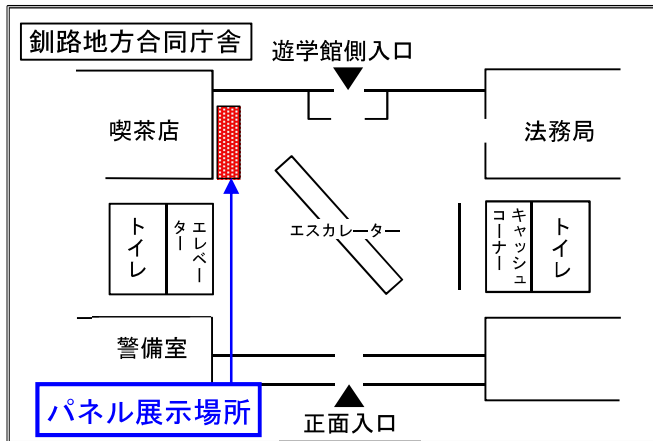
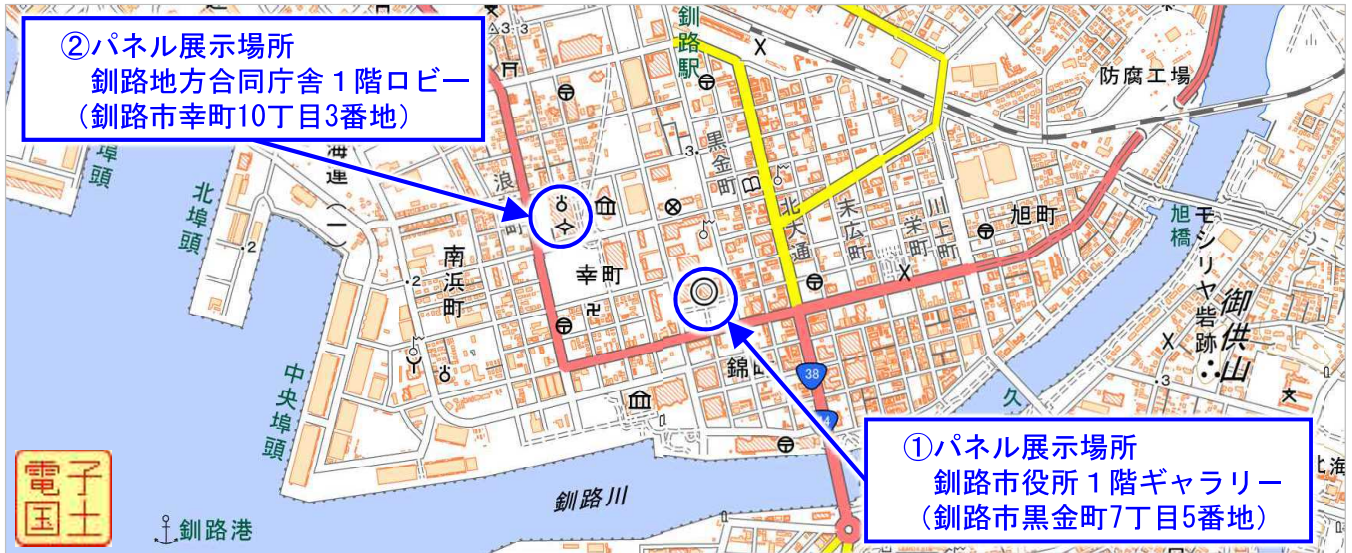
【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 電話（ダイヤルイン）0154-24-7268

道路計画課 課長 みうら ゆきひろ 三浦 之裕 （内線：3351）

道路計画課 課長補佐 はました かずひさ 濱下 和久 （内線：3352）

釧路開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/ks/>





展示パネルの一例

今、日本にある電柱の総数は約3600万本! 桜の木の数も約3600万本!

国内にある電柱の数は桜の本の数と同じ約3600万本!

年増 約7万本のペースで電柱が増加しています

年	電柱本数 (万本)	増加分 (万本)
H20	3525	
H24	3552	+27万本 (+7万本/年)
H28	3576	+24万本 (+7万本/年)
H29	3585	+7万本/年

電柱の本数と種類

私たちが暮らす日本には、約3600万本の電柱が立っています。そもそも、電柱には、私たちの家に電気を送る「電力柱」と電話など通信を目的とした「電信柱」の2種類があります。電気も電話も私たちの暮らしに欠かせないライフラインの一つです。しかし、ライフラインが整備される中で、毎年約7万本もの電柱が増加し続けています。

そもそも日本の電柱の歴史って?

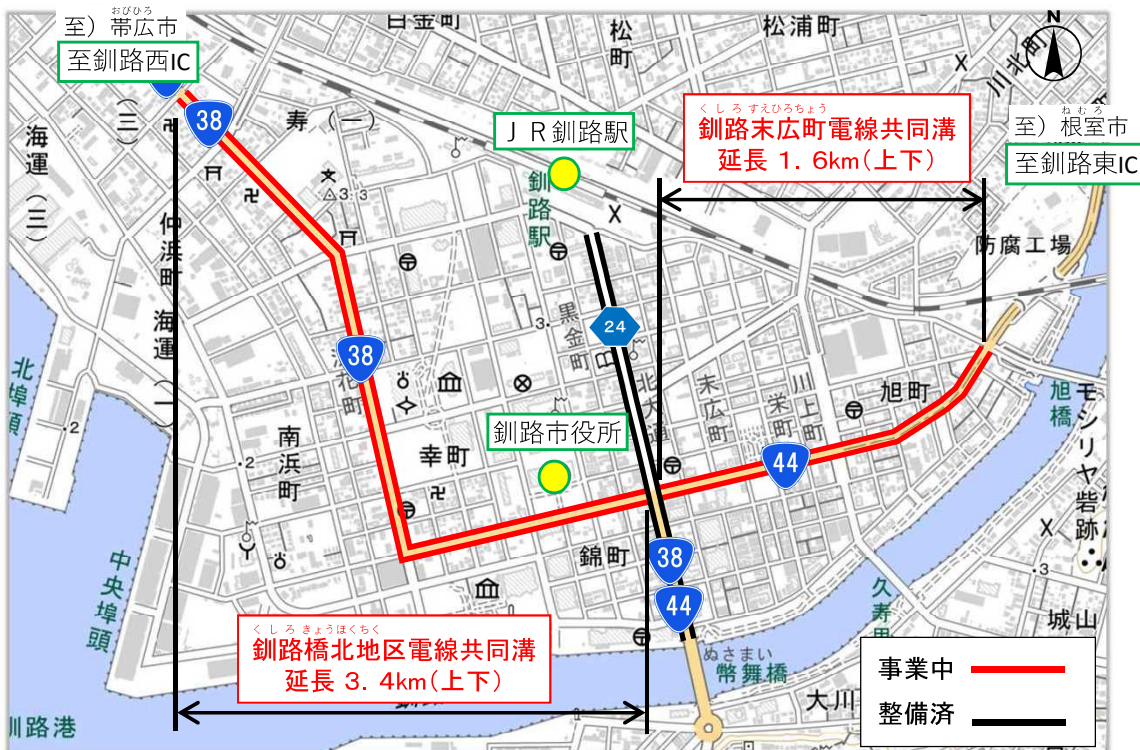
■日本初の配電線による電灯供給

明治20年(1887年)11月29日、東京電燈会社(東京電力の前身)は、日本橋茅場町に設置した第2電燈局(小規模の火力発電所)から、配電線による電灯供給を行いました。これが配電線により電気が供給された日本で初めての事例であると言われています。

■日本最古のコンクリート電柱は四角形!

明治中期から後期にかけて、電気・電信技術が確立されたことから、その整備の一環として国内の大都市・県庁所在地を中心に電柱の整備が始まったと言われています。ちなみに、日本にある最古のコンクリート電柱は北海道函館市末広町にあり、現在も現役の電柱として活躍しています。高さ約10メートルの電柱は四角い形をしているのが特徴です。当時は木造電柱が主流でしたが、函館が大火の多い街であったことから耐火を目的にコンクリートで作られたと言われています。

無電柱化整備箇所



無電柱化の目的

- 整備箇所は「釧路市津波避難計画」において津波避難時の避難路に指定されているほか、釧路市バリアフリー基本構想の「重点整備地区」に指定されています。
また、「釧路市景観計画」において地域を活性化する拠点として良好な景観の形成を進める「景観計画重点地区」に指定されています。
- 無電柱化整備により、災害時における緊急輸送道路や避難路の確保、並びに安全で快適な歩行空間の確保を図るとともに良好な都市景観の形成や観光振興に向けたまちづくりを支援します。

電線共同溝整備の工事状況

R44 釧路末広町電線共同溝整備イメージ

